

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

現在、脳神経外科では、本学で保管している診療後の残余検体と診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の検体・診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 動脈硬化血管モデルを用いた血栓回収デバイスの最適な選択かつ有効な使用方法の評価

[研究対象者] 2024年4月から2026年3月までの間に  
東京女子医科大学病院及び東京女子医大八千代医療センターにて  
内頸動脈または中大脳動脈狭窄症及び閉塞症(もやもや病を含む)と診断され、  
浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術を施行された患者様  
内頸動脈狭窄症と診断され、頸動脈内膜剥離術を施行された患者様

[利用している残余検体・診療情報等の項目]

残余検体：浅側頭動脈断端及び頸動脈プラーク(うち、残余があるものに限る。)

診療情報等：診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、併存疾患名、血液検査、画像検査

[利用の目的] (遺伝子解析研究：無)

麻痺や意識障害等の重篤な症状を来す脳梗塞の要因となる脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療(カテーテルによる再開通療法)の適応は治療機器の進歩に伴い日々拡大してはいますが、依然として有効再開通が困難な患者さんが一定数存在します。臨床上的再開通困難因子としては動脈硬化(閉塞部位の塊状石灰化)があり、動脈硬化脳血管モデルを作製し治療機器の有効及び安全な使用方法を検討することで実臨床に有益な情報を得ることを目的として本研究を立案しました。動脈硬化血管モデル作製にあたって実際の脳外科領域の手術において追加侵襲なく採取可能な試料としてバイパス手術の際の外頸動脈グラフトと頸動脈狭窄症に対する内膜剥離術における血栓があり、実際の動脈硬化血管の硬度や性状を再現するために様々な計測を行う予定です。

[共同研究機関及び研究責任者]

上記の検体・診療情報等を、下記機関に対して、動脈硬化度合いの計測のために提供します。

[主な提供方法]・直接手渡し

1. 早稲田大学先端生命医科学センター・教授 岩崎清隆

[研究実施期間] 倫理審査委員会承認後より2026年3月までの間(予定)

[この研究での検体・診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした検体や診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

機関長：東京女子医科大学 理事長 清水治

研究責任者：東京女子医科大学 脳神経外科 助教 大村佳大

研究内容の問い合わせ担当者：同上

電話：03-3353-8111（対応可能時間：平日9時～16時）